

# 2022年12月期 第2四半期決算説明資料

---

当社の設立は2018年7月ですので、2018年6月までの実績は  
モバイルクリエイイト株式会社の連結実績で集計しております



中期経営計画概要	p. 2
2022年12月期2Q決算概要	p. 5
事業のトピックス	p. 13
参考資料	p. 24

# 中期経営計画概要

## FY2022 – FY2024

---

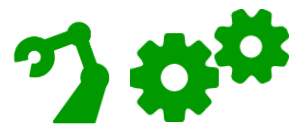
## IoT事業を支えるマシン事業とスマートシティ事業

IP無線 タクシー バス トラック ペイメント ホテル ロボット ドローン

### IoT（基盤拡大+成長投資）



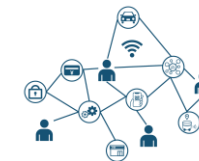
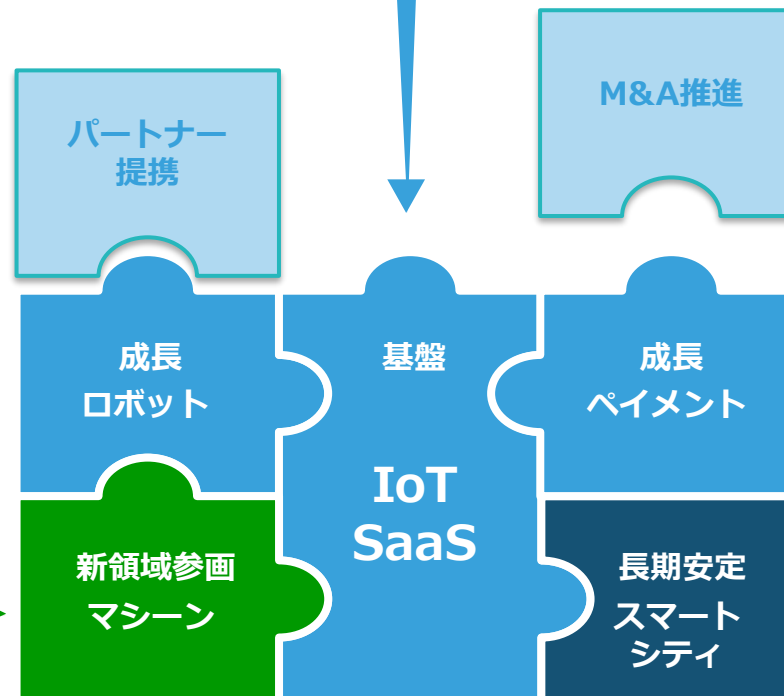
積極的投資とM&A推進による成長  
 基盤のIoT×SaaS事業拡大  
 ペイメント事業とロボット事業を新たな中核事業に発展（3年後に単独セグメント化を目指す）



半導体製造・自動車関連装置  
 ロボット製造

### マシン（改革・新領域参画）

IoTに必要なモノづくりの技術領域として  
 規模拡大ではなく質の向上（収益改善）  
 ロボット事業に本格的参画（改革）



### スマートシティ（長期安定）

賃貸マンション30年一括借上契約  
 の長期安定収益  
 スマートシティの実証フィールド  
 としてIoTを支える



# 2022年12月期2Q決算概要

---

## 売上高・営業利益ともに過去最高（2Q累計）

- ✓ IoT事業の売上高が好調に推移（前期比+25.7%）
- ✓ ペイメントが好調で全体業績を牽引、自治体防災用としてIP無線も好調（サブスクによる新規導入）
- ✓ マシン事業は、調達部品の長納期化により一時的に生産効率低下したものの、2Qより黒字回復
- ✓ 2022年6月2日に通期業績予想を修正（営業利益は750百万円から900百万円へ上方修正）

売上高（全体）	6,467百万円	前期比+8.6%
うちサブスク売上高	2,150百万円	前期比+9.9%
営業利益	621百万円	前期比+85.6%

# 業績サマリー

単位：百万円

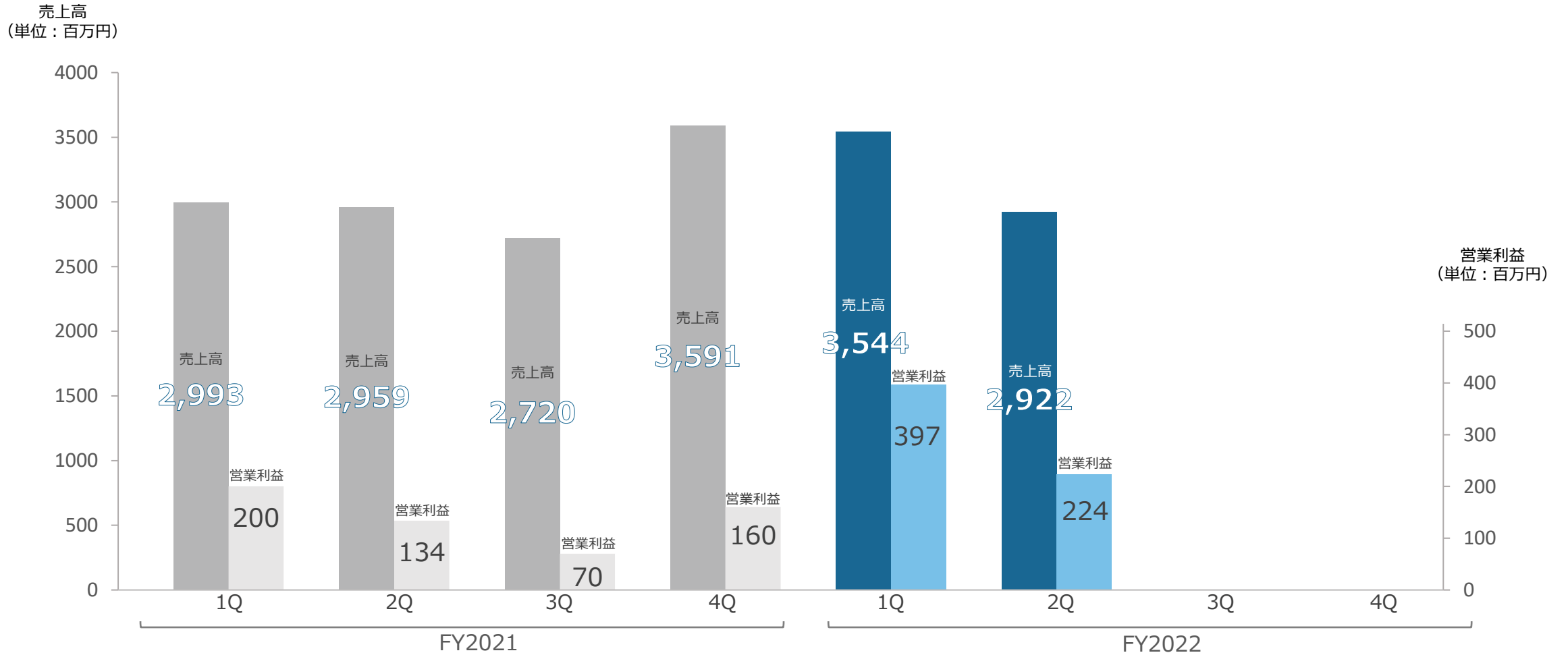
	FY2021 2Q累計	FY2022 2Q累計	増減額	増減率	FY2022 通期修正計画	進捗率	(参考) 通期期初計画
売上高	<b>5,952</b>	<b>6,467</b>	<b>514</b>	+8.6%	<b>13,000</b>	49.7%	13,000
売上総利益	<b>1,619</b>	<b>2,035</b>	<b>416</b>	+25.7%	—	—	—
営業利益	<b>335</b>	<b>621</b>	<b>286</b>	+85.6%	<b>900</b>	69.1%	750
経常利益	<b>344</b>	<b>610</b>	<b>266</b>	+77.3%	<b>862</b>	70.8%	712
最終利益	<b>236</b>	<b>429</b>	<b>193</b>	+81.5%	<b>574</b>	74.9%	474
EBITDA	<b>564</b>	<b>844</b>	<b>280</b>	+49.7%	—	—	—

※最終利益 = 親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益

※EBITDA = 営業利益 + 減価償却費 + のれん償却額



# 四半期業績推移 (売上高・営業利益)

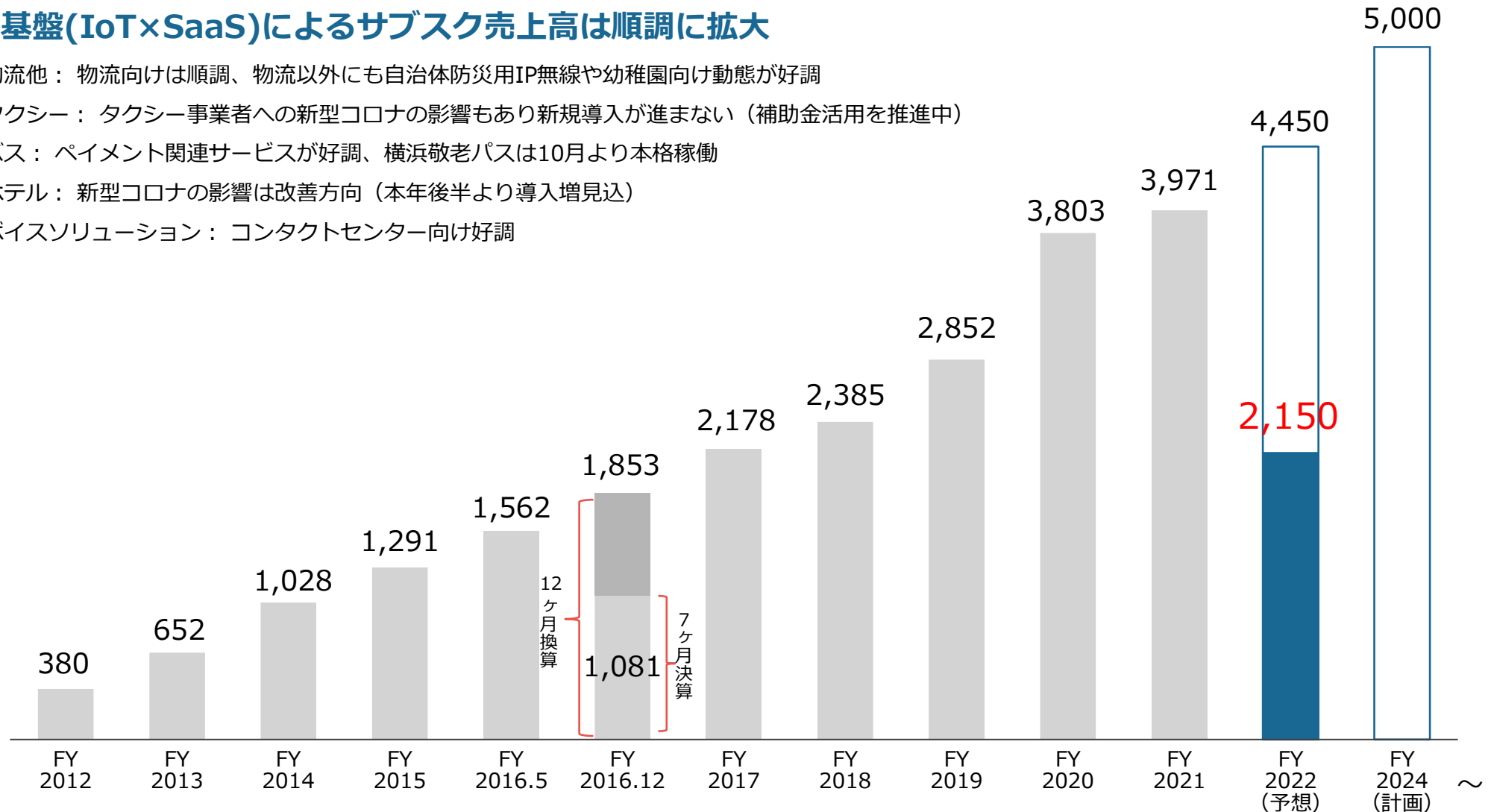


# サブスク売上高の推移

(単位：百万円)

## 収益基盤(IoT×SaaS)によるサブスク売上高は順調に拡大

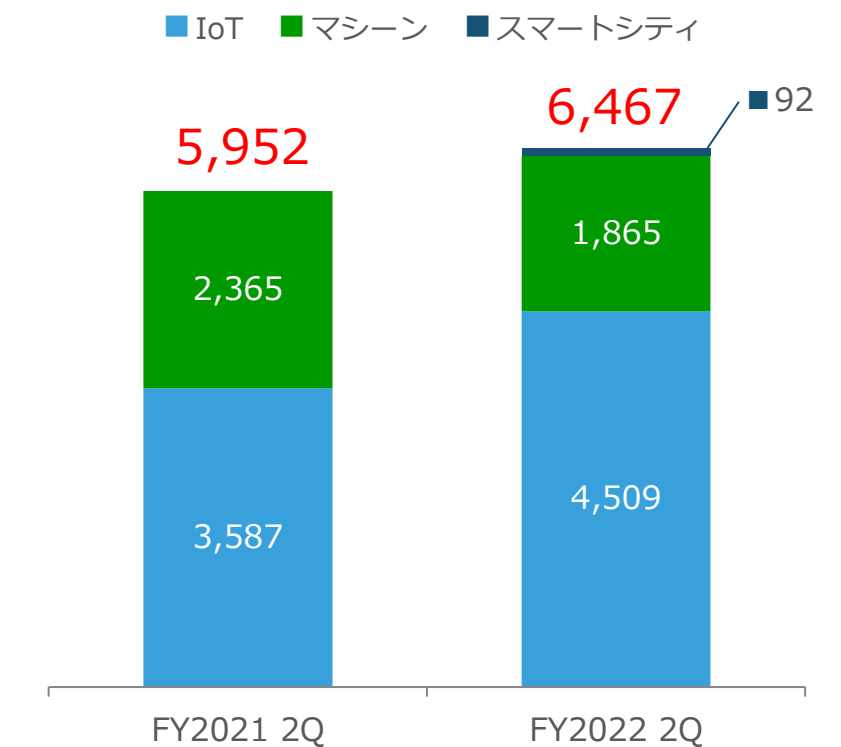
- ✓ 物流他：物流向けは順調、物流以外にも自治体防災用IP無線や幼稚園向け動態が好調
- ✓ タクシー：タクシー事業者への新型コロナの影響もあり新規導入が進まない（補助金活用を推進中）
- ✓ バス：支払い関連サービスが好調、横浜敬老パスは10月より本格稼働
- ✓ ホテル：新型コロナの影響は改善方向（本年後半より導入増見込）
- ✓ ボイスソリューション：コンタクトセンター向け好調



# セグメント別業績（2Q累計）

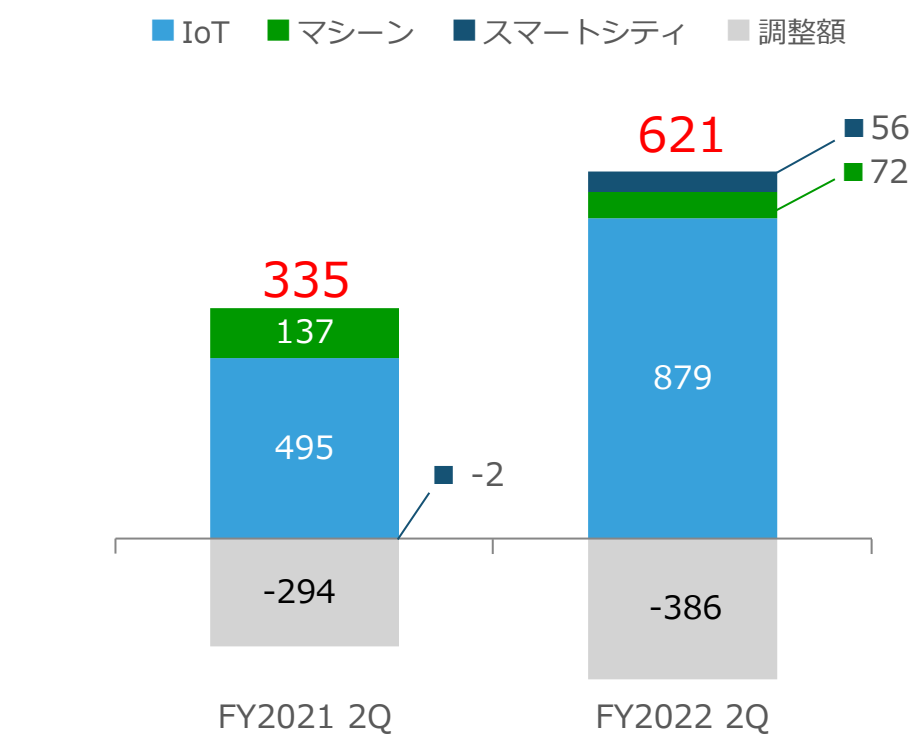
## 売上高

(単位:百万円)



## 営業利益

(単位:百万円)



## セグメント別業績（四半期推移）

単位：百万円

売上高	2021年12月期					2022年12月期					前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率
連結	2,993	2,959	2,720	3,591	12,264	3,544	2,922			6,467	+514	+8.6%
IoT	1,870	1,717	1,692	2,171	7,452	2,389	2,120			4,509	+921	+25.7%
マシーン	1,122	1,242	1,027	1,419	4,812	1,119	746			1,865	△499	△21.1%
スマートシティ	-	-	-	-	-	36	55			92	+92	-

営業利益	2021年12月期					2022年12月期					前年同期比	
	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	1Q	2Q	3Q	4Q	累計	増減額	増減率
連結	200	134	70	160	566	397	224			621	+286	+85.6%
IoT	296	198	197	269	961	560	318			879	+384	+77.6%
マシーン	47	89	40	112	290	△2	74			72	△64	△47.1%
スマートシティ	△1	△1	△1	△1	△5	20	36			56	+59	-
調整額	△142	△152	△166	△219	△680	△181	△205			△386	△91	-

# 貸借対照表

単位：百万円

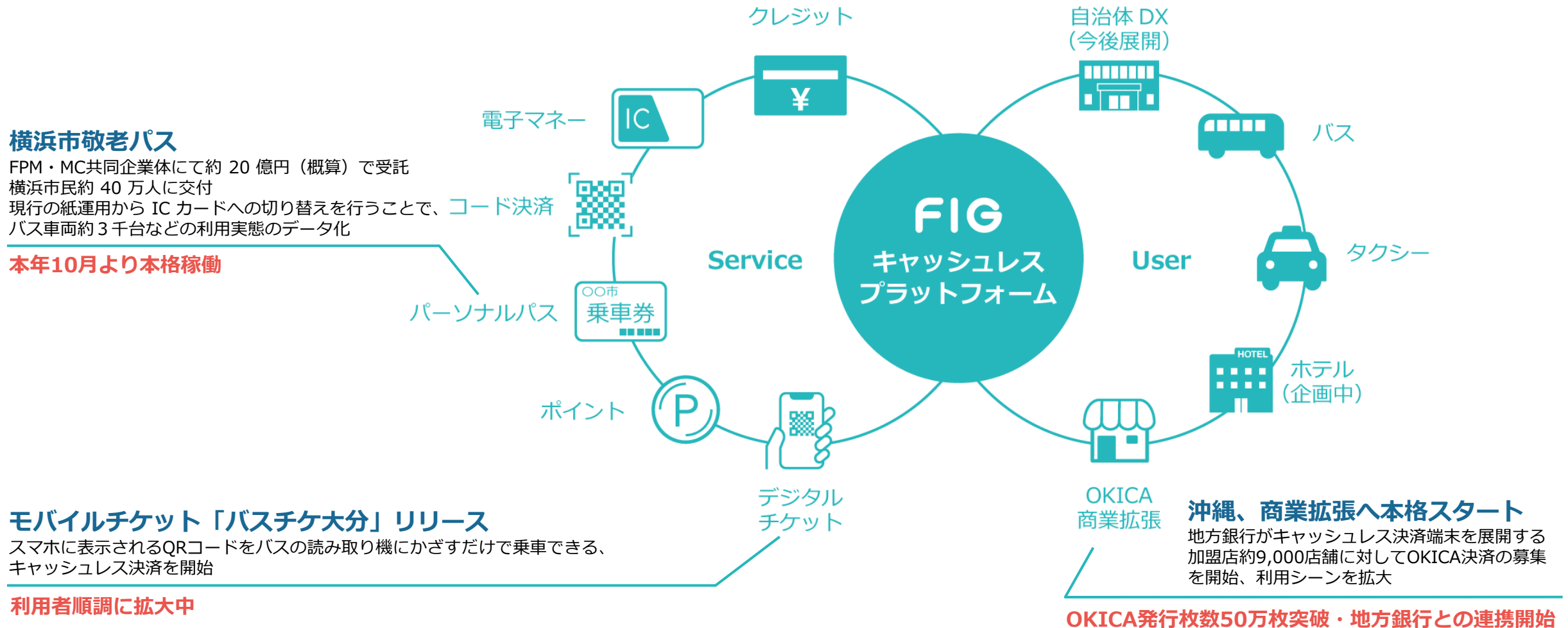
	2021年12月期末		2022年12月期2Q			
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	補足
流動資産	9,846	51.9%	11,852	62.1%	+2,005	リース投資資産 +2,565
うち現預金	2,414	12.7%	2,199	11.5%	△214	
固定資産	9,125	48.1%	7,221	37.9%	△1,903	建物及び構築物 +848 建設仮勘定 △2,939
資産合計	18,971	100%	19,074	100%	+102	
流動負債	7,068	37.3%	3,619	19.0%	△3,448	短期借入金 △3,304
固定負債	3,024	15.9%	6,358	33.3%	+3,334	長期借入金 +3,364
負債合計	10,093	53.2%	9,978	52.3%	△114	
純資産合計	8,878	46.8%	9,095	47.7%	+217	
負債・純資産合計	18,971	100%	19,074	100%	+102	

※ スマートシティ事業完成（2022年2月より賃貸開始）に伴う、資産科目振替・証書借入及び短期つなぎ資金の返済等

# 事業のトピックス

---

## キャッシュレスプラットフォームを構築中（順次サービスを拡大）



## モバイルチケット「バスチケ大分」

空港リムジンバスのチケットをスマホで決済し、スマホに表示されるQRコードをバスの読み取り機にかざすだけで乗車できる、キャッシュレス決済を開始



QRコードを読み取り、LINEで友達登録！

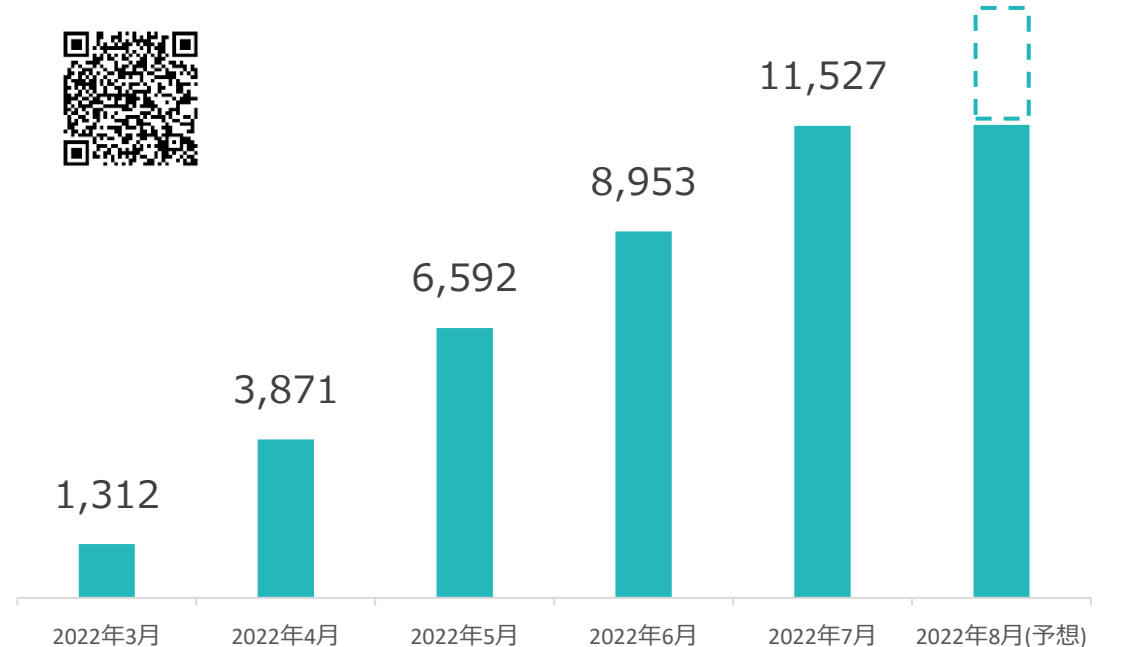


## サービスの横展開も推進

- ✓ ペイメントの新サービス
- ✓ センター集約型のAccount Base Ticketing (ABT) 方式を採用
- ✓ LINEからWEBクレジットカード決済にて購入したチケット情報をクラウドサーバで管理（オンラインでチケット消費判定）

**(LINE公式アカウントの) 友だち登録者数は  
順調に増加「バスチケ大分」**

(単位：人)







### 両社で目指す市場規模（物流・工場向け）

2024年  
目標規模 **50** 億円以上

現在、国内大手製造メーカーへの導入フェーズ入り

### GTP「Goods To Person」 棚搬送ロボット

- ✓ 床面に碁盤目状に敷設した2次元コードを読み取りながら搬送するタイプ
- ✓ 従来、人が棚まで歩いてピッキング作業をしていたところを、ロボットが棚を持ってくることで人の移動時間を大幅に削減
- ✓ 停止精度が高いためコンベヤなど他設備との連携も可能

### 資本業務提携の進捗状況

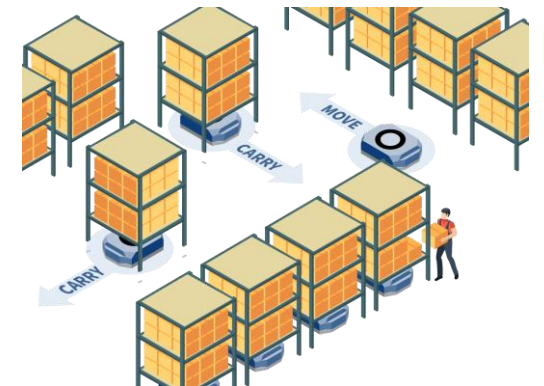
- ✓ 当社グループへの製造委託契約（3Qで契約締結、4Qから本格製造開始）
- ✓ 2Qより技術者を派遣し、技術連携を開始
- ✓ 3Qより経営・営業人材を派遣し、本格的にサポート

**FY2022は、将来の大きな成長に向けた各種取組みを実施  
引き続き、純国産のロボットへの期待は高く、営業見込案件も増えていることから、  
FY2023よりロボット分野での本格成長を見込む**

### 主力商品



TiTra G (GRIDタイプ)  
搬送重量 500kg, 1000kg



自社オリジナル  
搬送ロボット



グループ各社の技術を活かした  
「WILL」

大分県の新型コロナウイルス感染症患者の宿泊療養施設内でロボットの自動走行によるお弁当配送やごみ収集を実施  
ニーズに合わせて上部機構をカスタマイズし  
様々なシーンで活用が期待されるサービスロボット

▶▶▶ 量産試作中

デンソー社・IDEC社  
コラボレーション



自動式走行ユニット  
「DX-CELL+AMR」

DENSO社のDX-CELL、IDEC社のSafety Wheel Drive、  
ciRoboticsのナビゲーションシステムを融合  
多様化するモノづくり現場にもスムーズに導入可能

▶▶▶ 初導入・拡販へ

クリーンルーム対応  
人型協働ロボット



モバイルマニピュレーター  
「ciMoMa-SLIM」

大手医療機器メーカー・半導体メーカーへ導入  
クリーンルーム内での空気清浄度の検査を人からロボットへ  
生産工程内での製品搬送作業を人からロボットへ

▶▶▶ 導入実績拡大中



モバイルマニピュレーター  
「ciMoMa-GIANT」

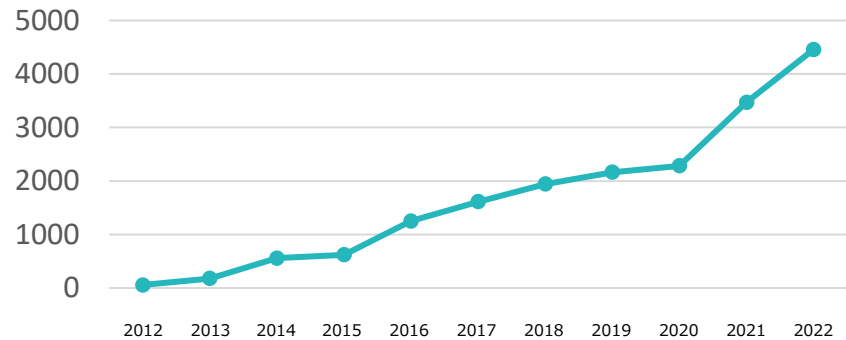
新規導入準備中  
可搬重量を増した大型MoMaもラインナップに加え  
幅広いニーズに対応可能

▶▶▶ 大型MoMa1号機完成  
8月下旬に出荷

## 現在全国27都道府県の自治体に導入済

導入実績約**4,000**台 + 新規導入中約**400**台

**2021年期初～自治体への導入台数は倍増**



累計導入台数推移

メイン市場（タクシー・バス・物流）だけでなく、災害に強いIP無線が非常時の通信手段として自治体へ活用拡大



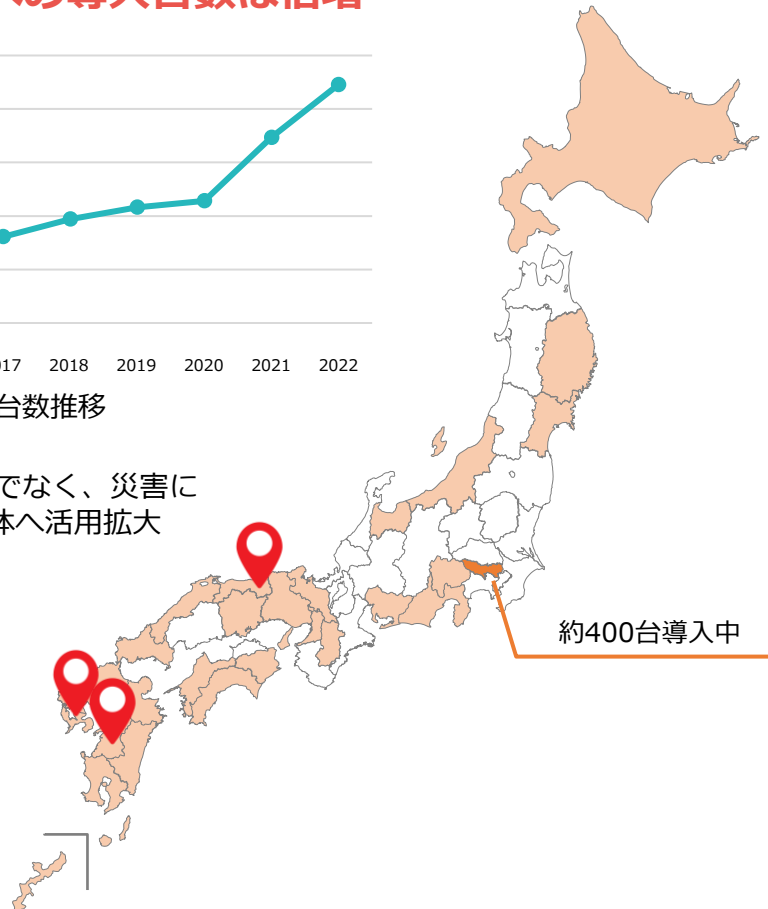
ハンディ型IP無線端末  
IM-550



IM-530



IP無線アプリ  
iMESH



約400台導入中

## 導入事例

### 熊本県 人吉市他周辺6市町村

人吉下球磨消防組合大規模災害に備え消防署、消防団、自治体をつなぐ無線ネットワークを構築



### 鳥取県鳥取市役所

市町村合併により新たに通信系統を一本化。iMESHでスムーズな情報伝達を実現



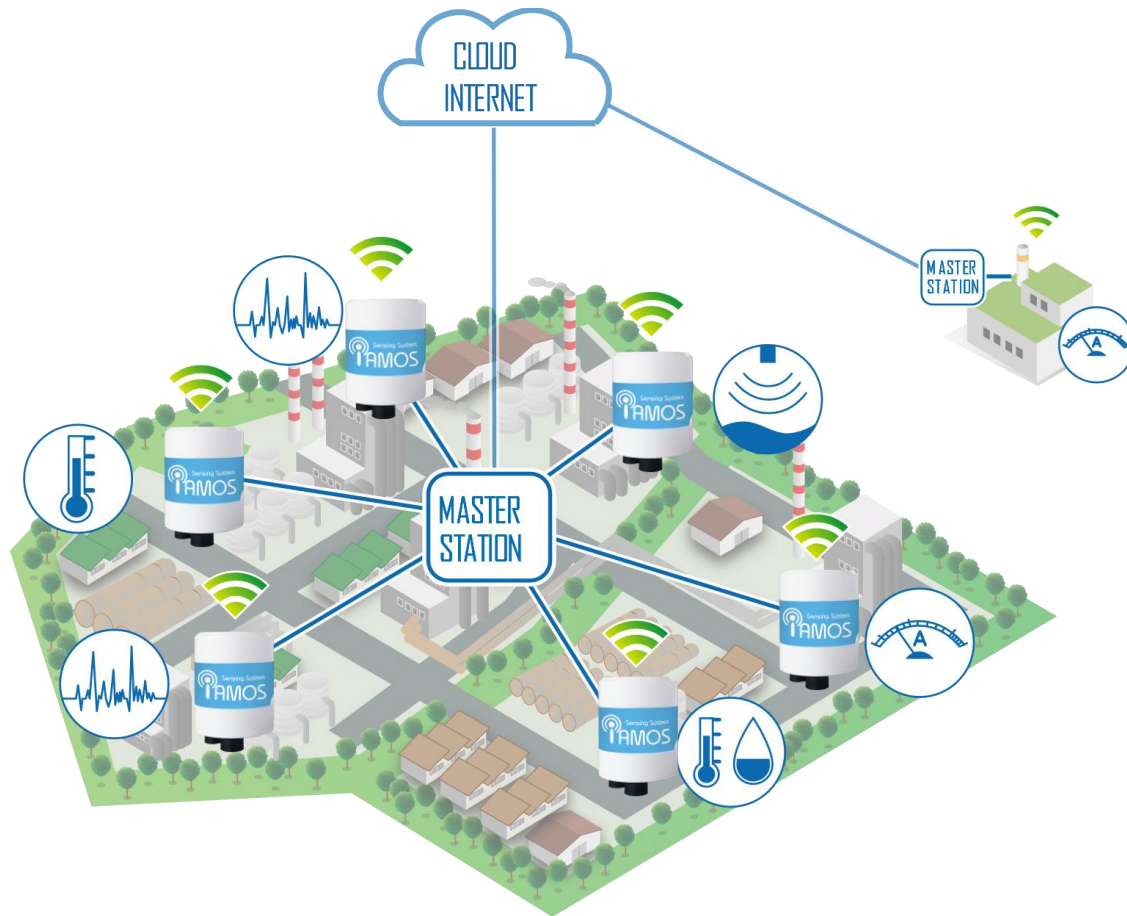
### 長崎県大村市役所

防災無線の課題を解決！  
IP無線で消防、医療、ボランティアすべてがつながる



## IoTセンシングシステム (オンプレミスorクラウド対応可能)

- ✓ 工場内設備のセンシングデータを集積しトレンドグラフ化、機器の状態と予兆保全を行う監視システム
- ✓ 月額定額制のサブスクリプションモデルも推進



ターゲット層  
製造工場、食品工場、水処理施設、大規模プラントなど



設備の  
予兆保全



点検作業の  
効率化



点検作業の  
リスク軽減



LTE通信による  
広域管理



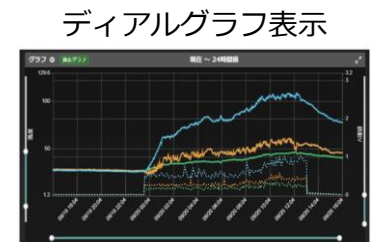
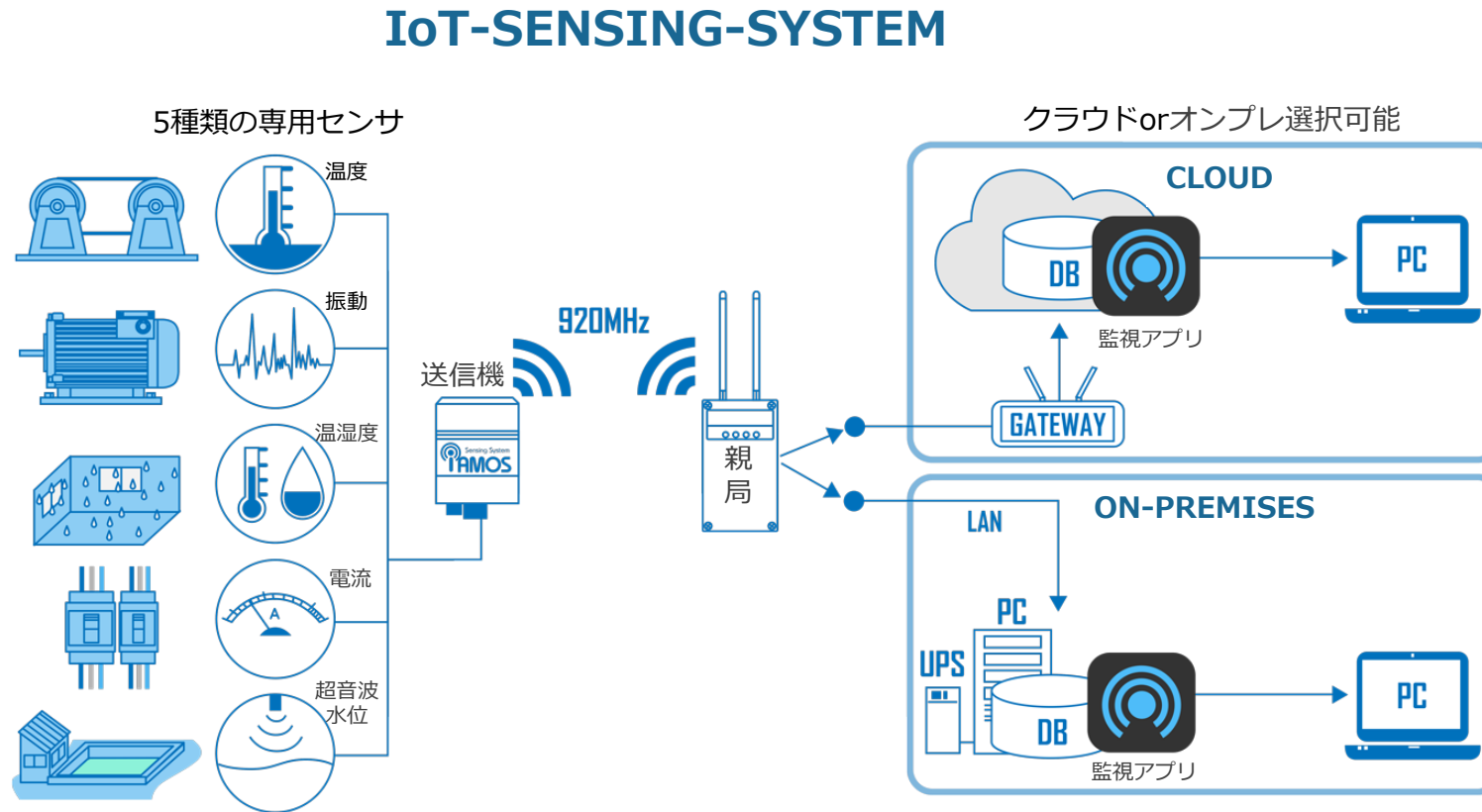
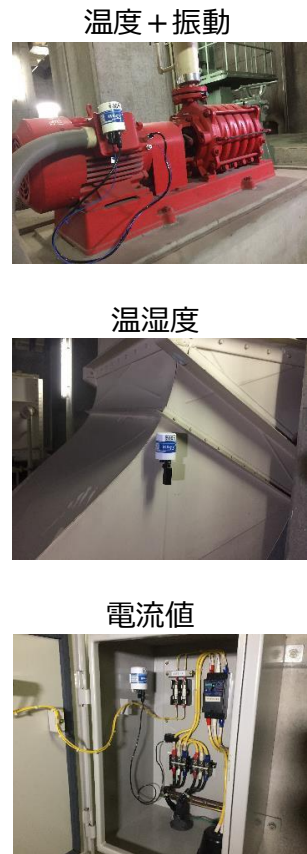
無線通信により  
簡単取付



収集データの  
集中管理

## 精密診断ではなく長期測定による予兆検出を目的とするIoTセンシングシステム

- ✓ 高精度、秒単位の測定方法では、データ量が大きく、機器が高価となり測定場所や数量が限定
- ✓ 一般的な測定精度でコストを抑え、920MHz無線通信により広範囲に使用可能な予兆保全システム



## 新株予約権（行使価額固定型）の発行

	第2回新株予約権	第3回新株予約権	第4回新株予約権
割当先	マッコーリー・バンク・リミテッド		
調達予定金額合計(a)	14.0億円		
各調達予定金額(a)	8.0億円	2.75億円	3.25億円
目的である株式数	2,000,000株 (うち1,918,200株は自己株式を充当)	500,000株 (全て新株式を充当)	500,000株 (全て新株式を充当)
当初行使価額(ターゲット価格)(b)	400円 (2022年6月24日終値対比+29.87%)	550円 (2022年6月24日終値対比+78.57%)	650円 (2022年6月24日終値対比+111.04%)
対発行済株式数(%)(c)	6.4%	1.6%	1.6%
行使期間	2022年7月14日～2024年7月16日		
行使価額修正条項	無し 行使価額の修正は行われません。		
新株予約権の買入消却	15営業日以上 の 事前通知により、残存新株予約権を発行価額で消却可能		

a. 新株予約権が当初行使価額に基づき全ての新株予約権が行使されたと仮定して算出した、新株予約権の行使に際して出資される財産の価額の総額を合算した金額です。

b. 2022年6月24日当社株価終値308円を規準に算出しております。

c. 2021年12月31日時点の発行済株式数31,176,015株を基準に算出しております。

中期経営計画の最終年度（FY2024）サブスク売上高50億円以上達成のため  
サブスクリプションモデルによるIoTデバイス等のリース投資資産の新規投資  
に約**14.0億円**の充当を目指す

サブスク売上高の上積みを図り  
現在のフロービジネスのサブスクへの移行を加速中

- ✓ ソフトウェア開発は自己資金を活用
- ✓ IoTデバイス等のリース投資資産の新規投資に15億円～20億円を予定

→このうち、約**14.0億円**については本資金調達による調達資金を充当する予定

本資金調達は、あくまでも中期的な当社財務戦略の一環であり、当社が本資金調達において想定する資金調達が結果として達成されない場合においても、不足分は自己資金の充当、借入等の方法により対応する予定です。

## 石井工作研究所 2023年1月1日より「REALIZE株式会社」へ商号変更

目的：FIGグループの中核企業として、新たな企業イメージ構築と社員の意識改革  
コーポレートアイデンティティをFIGグループに統一し、事業の改革と新領域参画を推進

**私たちが笑顔になる  
未来のイノベーションを実現**

realize future innovation we smile

# Realize



## 參考資料

---

# 会社概要



FIG (東証プライム・福証本則)

純粋持株会社

商号

FIG株式会社 (Future Innovation Group, Inc.)

設立

2018年7月2日 ※グループ前身のモバイルクリエイイト設立は2002年

代表者

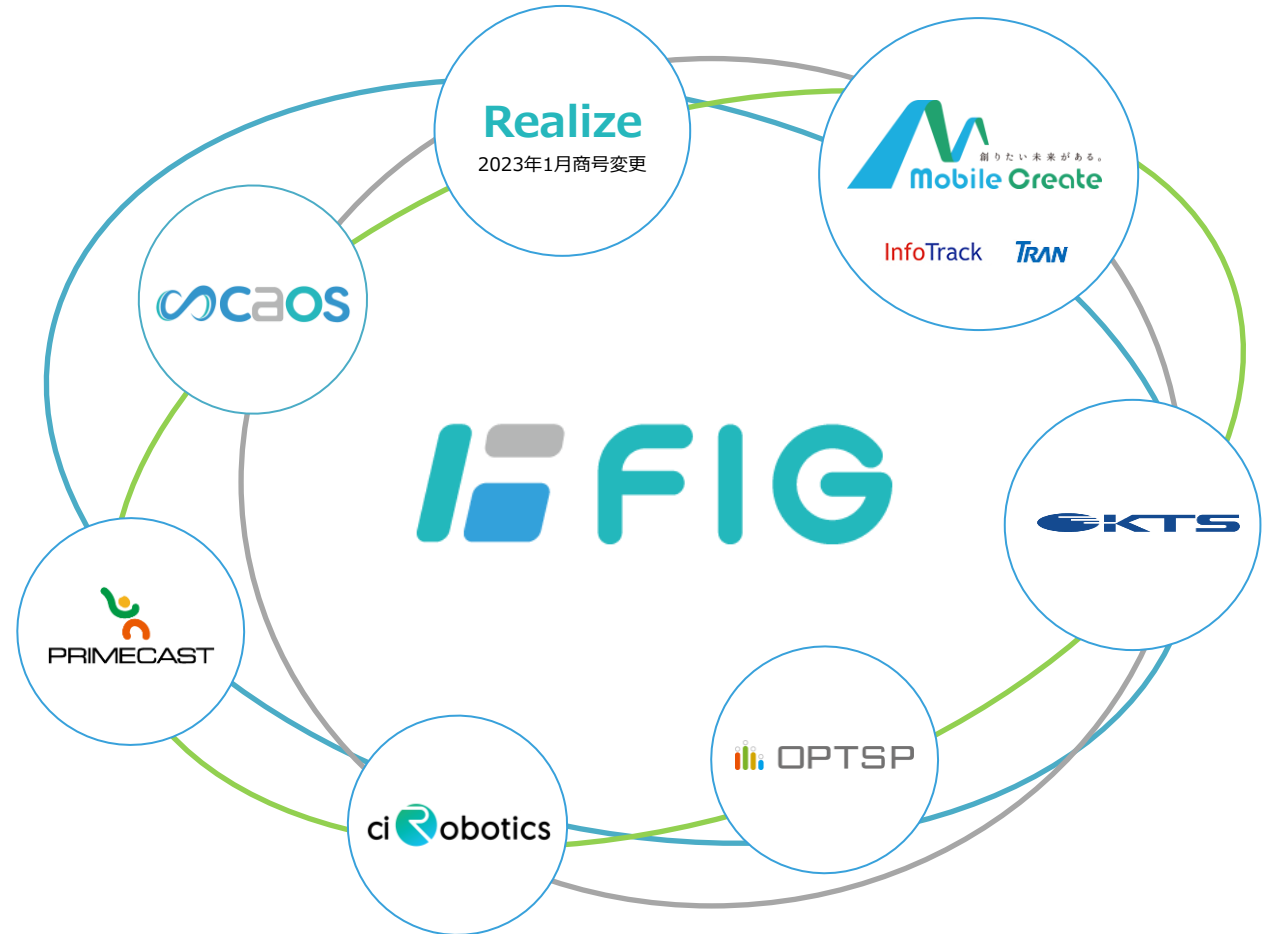
代表取締役社長 村井 雄司

所在地

大分県大分市東大道二丁目5番60号

従業員数

697名 (2021年12月末現在連結)



# FIGグループの主な事業紹介

## IP無線システム



携帯インフラを活用したIP無線システムのパイオニア。主力の車載タイプに加えて、防災市場ではハンディータイプが好調でLINE連携も展開。

## タクシー配車システム

タクシー配車システム、車載端末はタブレット化でメーターと連動。配車室受託が好調で、ユーザー向けLINE配車もサービス開始。



## 電子決済システム

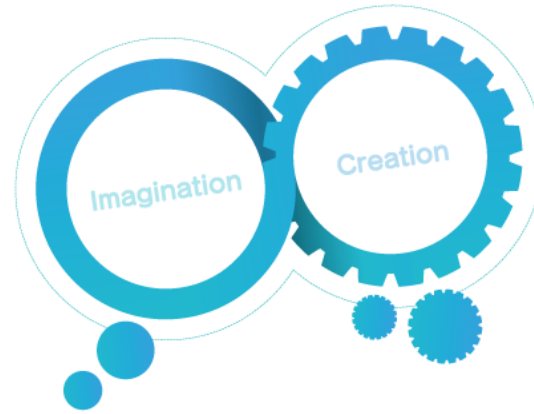
得意とする公共交通を中心にペイメントサービスを展開し、高いセキュリティ基準であるPCIDSSも取得。沖縄本島IC乗車券システムのOKICAは、商業拡張をスタート。



## バスロケーションシステム



バスの経路や乗り継ぎ検索、接近情報などをバス利用者へ提供。バスロケーションシステムでは、国内トップレベルのシェア。デジタルサイネージや混雑情報システムなども展開。



## 半導体・自動車関連自動化装置

自動車部品を製造する装置を開発から設計・製造・組立・販売・サービスまでトータルで手掛け、メーカーとして高い評価を得ています。



## ホテルスマート化



ビジネスホテルやシティーホテル向け客室のマルチメディアシステム、リネンシステム（客室清掃管理）や施設混雑案内システムなどIoTを活用しています。

## 産業用ロボット



マップデータを元に走行を行い、マニピュレーターが人の代わりに作業を行います。ロボットシステムインテグレーターだけでなく、自社オリジナル搬送ロボットも開発中。

## ドローン








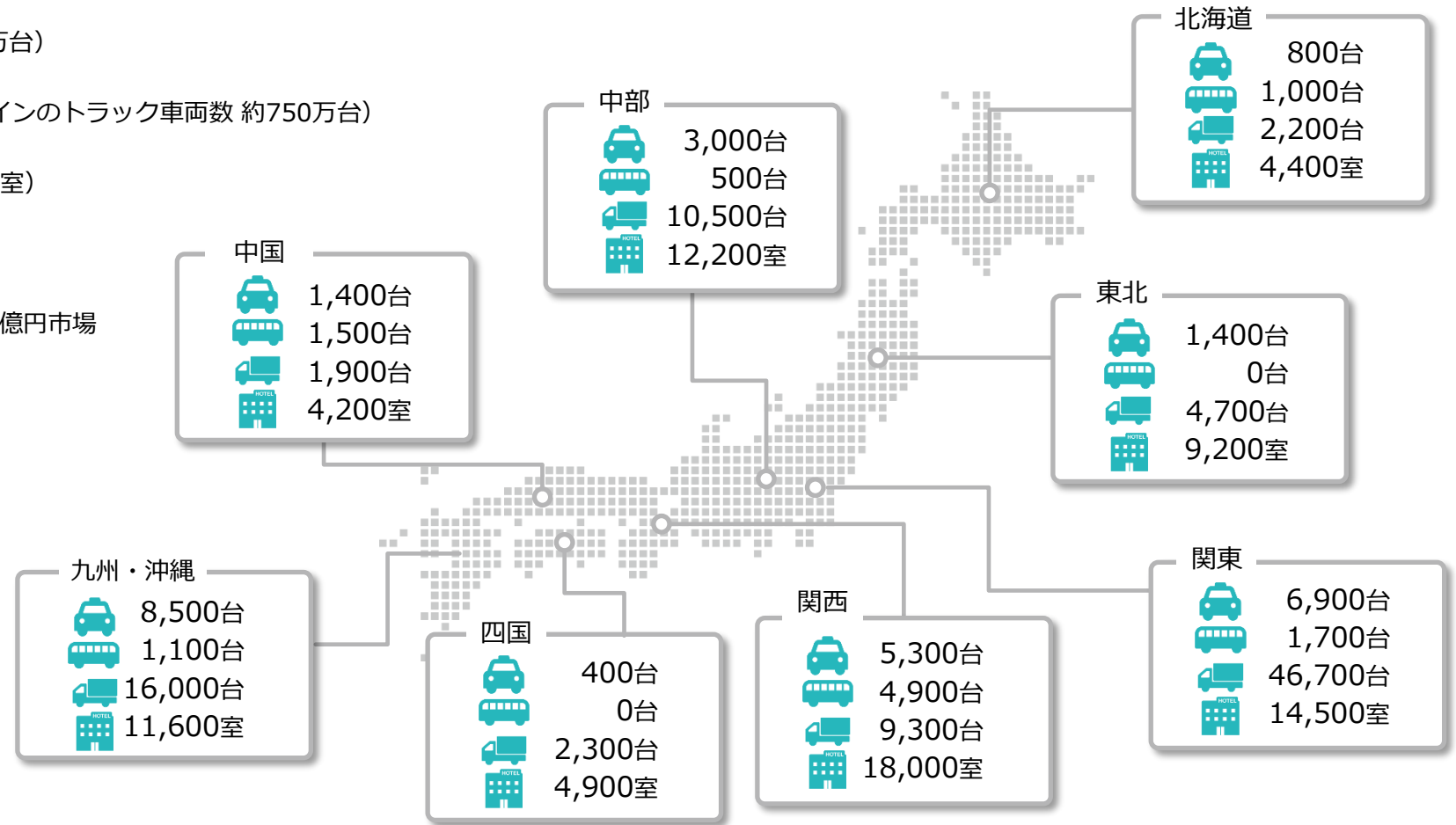
産業用ドローンの開発・販売を行っています。ドローン活用における省人化の実証実験にも参画しています（ドローン宅配・スマート農業・血液検体の輸送など）。

# IoT×SaaS事業（サブスクの顧客基盤）

## 顧客基盤（月額サービス契約数は21万件+a）

2021年12月時点

- 
 ・・・・タクシー 約27,700台  
 （シェア13%、タクシー車両数 約22万台）
- 
 ・・・・バス 約10,700台  
 （シェア21%、路線バス車両数 約5万台）
- 
 ・・・・物流他 約93,600台  
 （IP無線車載タイプシェアNo.1、メインのトラック車両数 約750万台）
- 
 ・・・・ホテル 約79,000室  
 （シェア7%、ホテル客室数 約110万室）
- 
 ・・・・ボイスソリューション法人契約数274件  
 ※コンタクトセンターソリューションは約5千億円市場



ESG・SDGsの視点を取り入れた事業戦略でサステナブル経営を目指す



Environment

ITで地球環境負荷低減へ貢献

- 自社の製品・サービスによる環境負荷低減
- 事業活動で排出される廃棄物削減、資源化率の向上、自然エネルギーの利用
- 有害物質使用削減への取り組み
- 地域環境の保全



Social

グループの技術で快適な未来を創造

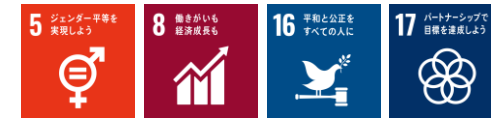
- Society5.0の社会を支える技術・サービスの提供（ドローン・ロボット）
- 持続可能な地域交通に貢献する（バス・タクシー）
- キャッシュレス化社会の実現に貢献する
- MaaSの普及に貢献する
- 防災・減災・安全に貢献する
- スマートホテルを実現する技術の追求
- はたらきやすさ（健康増進・ダイバーシティ推進）を提供する



Governance

経営基盤を強固にするためのガバナンスの強化

- コーポレート・ガバナンスの徹底
- 社外役員の登用
- 役員報酬額の決定方法
- コンプライアンスの順守・研修の実施
- 反社会的勢力排除への対応
- 情報セキュリティの強化





Future Innovation Group

【 連絡先 】 F I G株式会社 経営企画本部  
【 住所 】 大分県大分市東大道二丁目5番60号  
【 T E L 】 097 - 576 - 8730

本発表において提供される資料及び情報は、いわゆる「見通し情報(forward-looking statements)」を含みます。これらは現在における見込み、予測及びリスクを伴う想定に基づくものであり、実質的にこれらの記述とは異なる結果を招き得る不確実性を含んでおります。これらリスクや不確実性には、一般的な業界並びに市場の状況、金利、通貨為替変動といった一般的な国内及び国際的な経済状況が含まれます。